

4～6 月期の米新車販売は高水準維持も前期比マイナス

6 月の米新車販売台数（Light vehicles、Autodata ベース）は前月比 2.2%（5 月▲4.4%）と 2 ヶ月ぶりに増加した。新車販売は、ガソリン価格の急騰を受けて、燃費の良いエコカーの販売が 1～3 月期に急増した。4～6 月期に入ってからガソリン価格の急低下により、エコカー特需が剥落したため、低調に推移していたが、6 月に急増前とほぼ同水準で反発へ転じたことは、僅か一ヶ月のデータにとどまるものの、新車販売が減少基調へ転じた訳ではないことを示唆していると言えるだろう。1～3 月期を出来過ぎとして除けば、新車販売は緩やかな増勢を維持している。

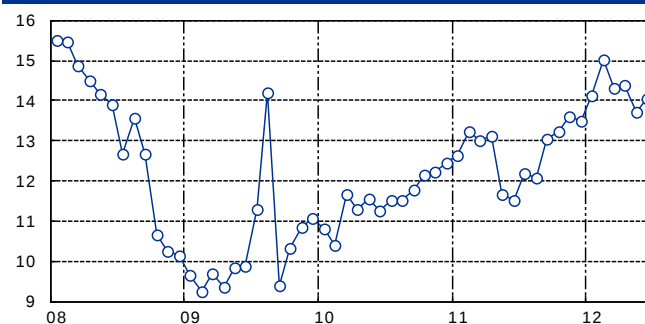
ただ、四半期ベースで見ると、4～6 月期は前期比でマイナスへ転落する。10～12 月期に前期比年率 36.1%、1～3 月期も 35.6%と大きく伸びた後、4～6 月期は▲12.0%である。こうした新車販売の減少が、4～6 月期の個人消費にも影を落としている。

先週発表された個人所得・支出統計によると、4～5 月平均の実質消費支出は 1～3 月期を年率換算で 1.2%上回るにとどまり、1～3 月期の前期比年率 2.5%から明確に減速した。こうした減速は、ほぼ全てが自動車関連によるものであり、自動車関連支出を除くと実質消費支出の 4～5 月平均は 1～3 月期を年率換算で 2.0%上回り、1～3 月期の前期比年率 1.7%から若干だが加速する。

4～6 月期新車販売の内訳では、燃費の良い乗用車（Autos）の販売が前期比年率▲29.9%（1～3 月期 98.2%）と落ち込み、全体を押し下げた。逆にピックアップトラックなどが主体のライトトラック（Light Trucks）は 12.4%（1～3 月期▲8.5%）と増加に転じている。上述したエコカー特需による販売増加と、その反動が鮮明である。

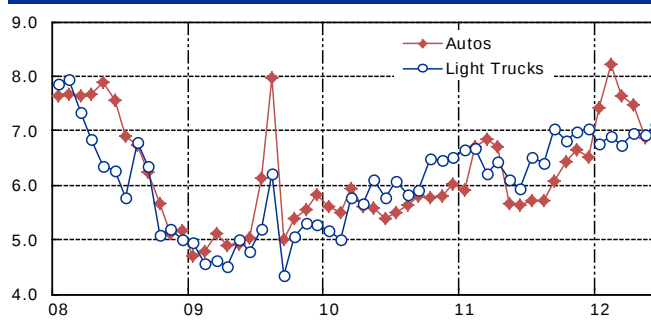
メーカー別に見ると、4～6 月期はいずれも 1～3 月期から水準を下げたが、特に韓国車の減少が目立った。米 G3 が前期比年率▲2.5%、欧州車と日本車が▲4.8%に対し、韓国車は▲15.1%の二桁減少である（当社季節調整値のため、Autodata の値とは一致しない）。なお、日本車の上半期シェアは 37%となり、2009 年の 40.4%、2010 年の 38.7%には届かないものの、2011 年の 35%からは明確に改善し、復調が窺われる。

米新車販売台数の推移（年率、百万台）



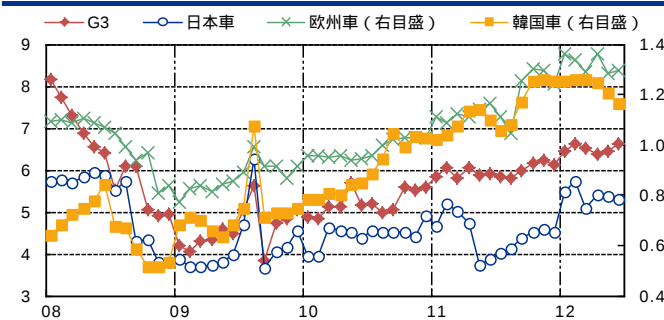
（出所）CEIC Data, Autodata

米新車販売台数の推移：車種別（年率、百万台）



（出所）CEIC Data, Autodata

米市場の各国メーカー別販売台数（季調値年率、百万台）



（出所）Bloomberg